

拝復 このたびは、拙著がお目にふれ、早速ごていねいなご祝章をたまわり、恐縮に存じます。

浅学非才の身を省みず、世の中に向けて何かを申し上げるといふ厚顔無恥な試みをあえて行ない、今は後悔の日々です。ご専門の方々は、さぞ苦々しい思いでいらつしやるものと恥じ入るばかりです。しかし、たとえ多くの不備、誤謬にまみれた拙著であつても、小生の感受性は唯一無二のものであり、他に譲るわけにはまいらず、今回の出版を決意した次第です。過分なおほめにあずかりましたことは、ありがたい喜びです。心から感謝いたします。

とりあえず、お礼まで申し上げます。

敬具